特集 風水害に備える

昨年、一昨年と連続して豪雨災害に見舞われた可児市。地域の防災力を高め、災害の被害を最小限にするため、6月3日に水防訓練を実施しました。

熱心に土のうを作る各自治会の代表者（帷子公民館）

7・15豪雨災害から2年

2年前の7月15日。午後4時から降り出した雨は猛烈な雷雨となり、市役所では降り始めから7時間に約270ミリを記録。近年経験のない記録的な豪雨となりました。

市内各地で道路冠水、家屋の浸水、土砂崩れなどの被害が発生。特に土田地内の市道50号線アンダーパスでは可児川の氾濫により、1人の尊い命が失われ、2人が今でも行方不明となっています。また、広見地内では可児川の堤防の決壊により広い範囲が浸水し、多くの家屋に被害が出ました。

あの日の犠牲を無にしない

この災害で被害を受けた人たちの犠牲を無にせず、二度と悲劇を繰り返さないようにすることが、私たちの使命です。そのためには、過去の悲劇をしっかりと記憶に留め、将来に引き継いでいくことが重要です。

初 市民参加の水防訓練

この豪雨災害を教訓とし、昨年初めて水防訓練を行いました。初動体制の確立や情報の一元化を目的とした訓練を、市消防団、可児警察署、市職員などが連携して行いました。

今年は水害時における地域の防災体制づくりを主眼に、市民の皆さんにも初めて参加してもらいました。市民と行政が一体となり、実践的な訓練を実施することにより、市全体の水防体制の強化を図ることを目的に行いました。

当日は、市民、市消防団、可児警察署、可茂消防事務組合、市職員など約400人が参加。市では、災害対策本部訓練のほか、各連絡所に設置する支部訓練として、本部および自治会との情報伝達訓練を行いました。各自治会では、土のう作り訓練や避難誘導訓練、わが家のハザードマップ作りなどを行いました。

緊張感漂う災害対策本部

6/3 水防訓練を振り返る

訓練では、20分間に35ミリの雨を観測し、可児川の水位が上昇。また、土砂災害警戒情報が発表されたという想定で行いました。災害対策本部を設置し、市内全域に避難勧告を発令しました。

いざという時の安否確認のために

中恵土公民館では、（財）日本公衆電話会による災害用伝言ダイヤル171の体験が行われ、市民ら50人が参加しました。体験した人は、「とても便利。災害時にはきっと役に立つと思う」と話していました。

隣の自治会と連携

下恵土の宮瀬自治会では、約20人が参加。過去に冠水が起こった名鉄とＪＲ踏切付近の道路を通行止めにし、土のうを60袋作り、積む訓練を行いました。また、隣の古市場自治会と、土のう運搬などの連携も図りました。

雨水排水ポンプで訓練（今年度、7台購入）

河川が増水し、水門が閉まり、水路の水が河川に流せなくなった時に、この移動式ポンプを使って河川に排水します。水防訓練では市建設業協同組合と市職員により、内水氾濫が起こる3カ所にポンプを運び、可児川に排水するまでの過程を確認しました。

市道50号線の通行止め訓練

午前8時45分ごろ、市道50号線の土田井之鼻交差点から虹ケ丘交差点を通行止めにし、高架下市道を、バリケードや遮断機で封鎖しました。

また、電光表示板を「冠水・通行止め」に切り替えました。

防災に関する取り組み

市は、水防訓練以外にも防災に関するさまざまな取り組みを行っています。その一部を紹介します。

メール配信サービス「すぐメールかに」

災害、気象、地震などの緊急情報はもちろん、市や学校からのお知らせを電子メールで配信しており、すでに１万人以上の人が利用しています。防災に関して市民の皆さんが利用できるメニューには次のものがあります。

災害時緊急メール	災害の発生情報や緊急防災情報
気象情報（可児市対象）	大雨、暴風（強風）、洪水、大雪の各警報・注意報
地震情報（可児市対象）	震度による地震情報
火災情報メール	市内で発生した火災情報

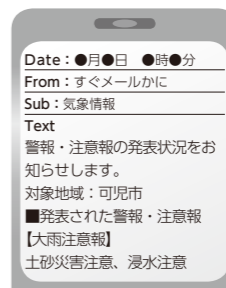
<登録方法>

下記のメールアドレスに空メール（件名・本文に何も書かずに送るメール）を送信すると、仮登録メールが返信されます。その本文に明記されたアドレス（本登録ページ）に進み、画面の指示に従って操作すると登録できます。

■空メールのあて先＝　kani@sugumail.com

二次元バーコードの読み取りができる携帯電話では、左記のコードを利用してください。

※迷惑メール防止設定がある場合は、「sugumail.com」を受信可能にしてください。設定方法は、取扱説明書や販売店で確認してください。

Date：●月●日　●時●分
From：すぐメールかに
Sub：気象情報
Text
警報・注意報の発表状況をお知らせします。
対象地域：可児市
■発表された警報・注意報
【大雨注意報】
土砂災害注意、浸水注意

問合先　総務課

災害時外国人サポートボランティアの募集

市は、地震などの大規模な災害が発生し、外国人被災者支援が必要と判断した場合には、「災害時多言語支援センター」を多文化共生センター（JR可児駅西側）に設置します。

この支援センターの運営には多くのスタッフが必要になります。災害時にボランティア（支援サポーター）できる人の登録を募集しています。

募集する支援サポーター

○言語サポーター（主に通訳や翻訳を行う）
○一般サポーター（支援センター全体の運営をサポート）

多文化共生センター・フレビア

申込・問合先　多文化共生センター　☎（60）1122

ため池の点検調査

ため池は、農業用水を確保するため、人工的に造られた施設です。また、防災上の役割を果たしている施設でもあります。豪雨時の一時的な出水量の増大に対して、事前に貯水量を減らしておくことで調整機能を持ちます。

今年度は、市内に160カ所以上あるため池のうち、降雨などにより堤体が浸食され、断面が不足しているものや漏水が疑われるものなど20カ所を優先して調査を行います。

点検調査の様子

この調査によって、改修の順位付けを行い、改修内容によって県へ要望、また市で改修を行っていきます。

調査のご協力をよろしくお願いします。

問合先　土木課

減災を目指す3つの柱

自助　共助　公助

自助　「自分の命は自分で守る」

これまで、水防訓練の内容や防災に関する市の取り組みを紹介してきました。このように市は、ハード面、ソフト面での防災対策（公助）を進めています。しかし、先の7・15豪雨災害のように、市内各地で同時多発的に大きな災害が起これば、公助だけでは限界があります。そのような時に頼りになるのは、やはり自分自身です。

情報の収集

○雨が強く降り始めたら、テレビやラジオで最新の気象情報、災害情報を手に入れましょう
○洪水の危険が迫ったときは、防災行政無線から避難の呼び掛けがあります。また、市の広報車、消防団の車両などで行う場合もあります
○大雨が降っている時に家の中にいると、風雨の音で外からの呼び掛けが聞こえにくい場合があります。危険を感じたら早めに避難をするよう心掛けましょう

避難勧告と避難指示

避難勧告…住んでいる地域に被害が発生する恐れがある場合、前もって避難を促すもの
避難指示…いつ災害が発生してもおかしくない場合に発令されるもの

避難時の心得

○早めに避難しましょう（避難勧告が出ていなくても危険を感じたら行動しましょう）
○安全な服装・履物にしましょう
○水深がひざ以上なら歩くのは危険です
○水面下には危険が潜んでいます
○がけの近くは避けましょう
○特別な事情が無い限り、車での避難はやめましょう

共助　「地域のことは地域で守る」

あなたは普段、「ご近所さん」と仲良くしていますか。共助を考えるときには、近所付き合いが基本となります。被災したとき、公的な応援の到着には時間が掛かります。そのとき、頼りになるのは「ご近所さん」です。災害時に円滑に協力するためには、普段からの交流が大きな力となります。

自主防災組織の大切さ

地域防災力向上のために大切な取り組みの一つとして、「自主防災組織」があります。これは、地域住民が自主的な防災活動を行う組織です。大規模災害が起こった場合は、道路が通れなくなり、停電や断水により、行政の救助活動が制限される事態が予想されます。そのような時に、住民が協力し合って地域の被害を最小限に抑えることが、自主防災組織の役割です。

しかし、自主防災組織を結成している自治会は、135自治会のうち85自治会で、組織率は63％にとどまっています。

自治会の中には、「自分たちのまちを自分たちで守ろう」という考えから、積極的な防災訓練や防災活動を行っているところもあります。

まだ自主防災組織を結成していない自治会は、組織づくりをぜひ考えてください。

地域の防災力を高めるために

防災安全課長
細野雅央

大きな災害が発生すると、行政だけの対応には限界があります。

そこで、災害発生時における被害を最小限にするため、自分の命を守る「自助」、みんなの地域はみんなで守る「共助」、行政が担う「公助」の3つが連携して、バランスよく支え合うことが、減災を目指す上で最も重要なことであると考えています。

そのため、普段から自分たちの地域を良く知ることと、人と人とのつながりが大切です。

災害はいつ起きるか分かりません。今一度、自分たちでできることは何かをみんなで話し合い、自分たちの地域は自分たちで守っていくという積極的な取り組みをお願いします。

問合先　防災安全課